



Idea Landscape

アイデアランドスケープ

知財とAIが描く、未来の事業地図

知財図鑑

なぜ、新規事業開発は迷走するのか？

背景には、組織構造やプロセスにまたがる複数の課題が絡み合っています



アイデアの枯渇と偏り

既存の知識に縛られ
網羅性がない



埋もれる資産

知財情報が専門的で
有効活用できない



共通言語の欠如

事業部間で
議論がまとまらない



自社の知財が、事業化にうまく繋がらない

圧倒的な「量」のアプローチで、既存手法の課題を超える

AIの強みを活かし、人間が発想しきれない膨大な量のアイデアを構造化して探索する



アイデアの枯渇と偏り

既存の知識に縛られ
網羅性がない



全方位に圧倒的な量を創出
網羅性を担保



埋もれる資産

知財情報が専門的で
有効活用できない



アイデアデータベース
休眠特許を異分野に転用



共通言語の欠如

事業部間で
議論がまとまらない



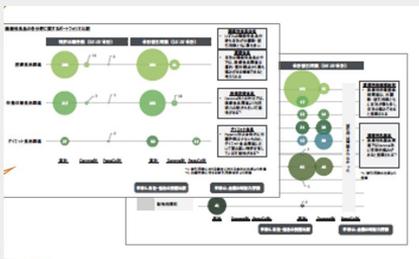
専門知識不要で翻訳
社内共通の資産化

アイデアランドスケープ＝「知財の可能性を拡張し未来を描く」手法

事業開発に必要なのは、無限の可能性から「次に登る山」を探す「未来の地図」です

IPランドスケープ ＝現在地

特許情報を分析して、自社の立ち位置や強み、競合との差を特定する



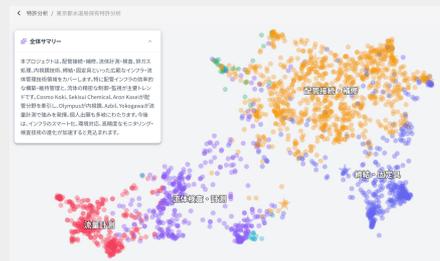
評価基準は実績ベースで、引用数や出願件数など過去の数値を評価

マーケット分析・技術動向の把握
(守りの知財活用)



アイデアランドスケープ ＝未来地図

事業アイデアを可視化して、新規領域や開拓すべき市場を探索する

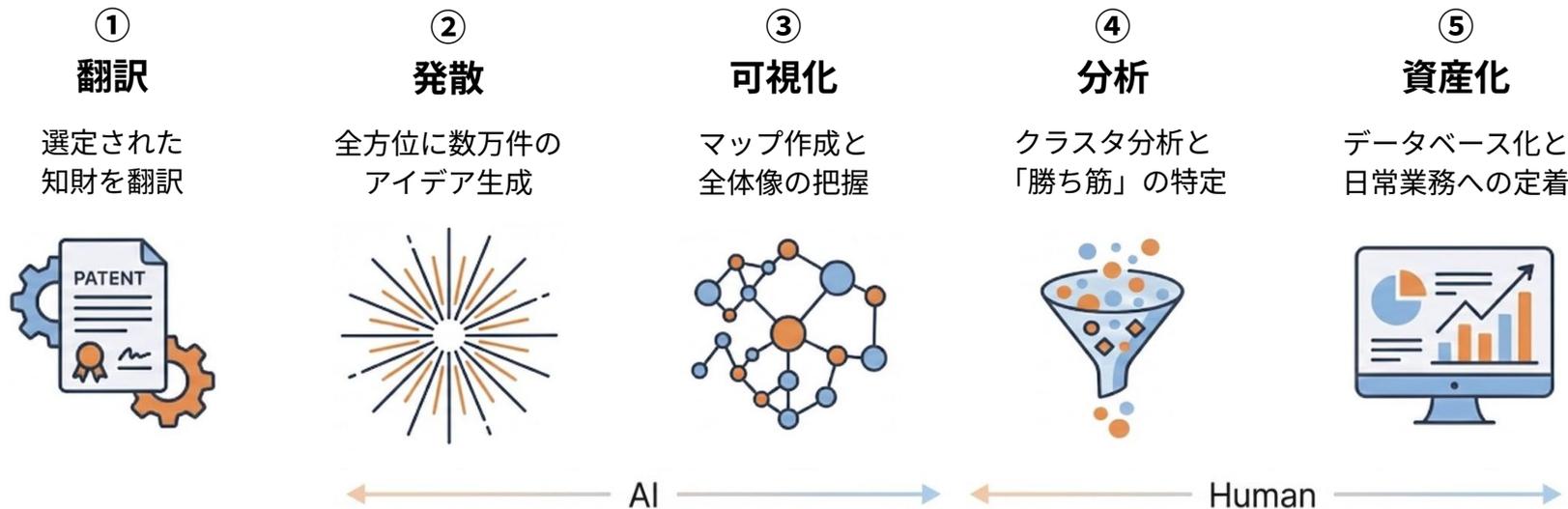


評価基準はAIによる未来予測ベースで、新規性・市場性・実現性を評価

戦略策定・新規事業領域の探索
(攻めの知財活用)

アイデアランドスケープの実施内容

「翻訳」から「資産化」までの5つのステップで、新規事業の領域を探索します



大量のアイデアで「可能性の全体像」を描き、構造化した地図で探索する

②発散：知財の持つ可能性を、あらゆる領域のアイデアとして拡散

全方位かつ、大量に生成することで、人間の思い込みやバイアスを外したアイデアを生み出す



アイデアの発散

AIが強制発想することで、人間では思いつかない**異分野のアイデア**を大量に創出する

全方位に創出

1つの特許からあらゆる領域にアイデア生成することで、**バイアスにとらわれず**に可能性を追求

多様な解像度

実際の特許を元にSF作家・起業家などのロールで発想することで、**ありきたりのアイデアから脱却**

③可視化：ビッグデータを地図で表わし、「勝ち筋」を特定する

広大な情報空間からAIが最適な領域を探索し、人間が意思を持って「選択」する

マクロ視点（戦略）

→どの領域に進むべきかを決定



ミクロ視点（検証）

→どの施策を実施するかを決定



マップの特徴

- ・発見：人間の発想だけでは辿り着けなかった、飛び地や異分野結合を、圧倒的な時短効果とともに見出す
- ・可視化：数万件のアイデアを意味の近いクラスターごとにマッピング
- ・マクロ探索：人間が思いつかない規模の「探索空間」を俯瞰視点で分析
→「参入すべき領域」を探る
- ・ミクロ検証：個別の点（アイデア）から微細な視点で内容を検証
→具体的な事業プランを決定

④分析：データドリブンな意思決定で有望領域を特定

多様な切り口のデータを元に、使える自社特許が瞬時に見つかる検索エンジンになる

Nomic Topic: Broad	キーワード	平均スコア	新規性平均スコア	市場性平均スコア	実現性平均スコア
Lightweight materials	災害管理	10.94	3.44	3.72	3.78
Lightweight materials	インフラ	10.97	3.1	3.84	4.03
Lightweight materials	医療用補助機器	10.8	3.2	3.67	3.93
Lightweight materials	緊急用機器	10.94	3.19	3.73	4.02
Lightweight materials	携帯用折りたたみ工具	10.53	3.11	3.47	3.95
Lightweight materials	コスト削減	10.73	3.27	3.67	3.8
Underwater Cable Mana	洋上風力発電	10.62	3.49	4.31	2.82
Underwater Cable Mana	ロボティクス	11.22	3.24	4.14	3.84
Underwater Cable Mana	水中機器	9.98	3	4	2.98
Underwater Cable Mana	産業排水処理	10.47	3.16	4.21	3.11

データ分析の手法

- テーマ別探索：**
 「フードロスを解決するアイデア」などを**ニーズ**から**逆引きで検索**。ベストなアイデアをAIが瞬時に提案し、**課題ドリブンなアイデア探索に活用**。
- スコアリング：**以下の3軸でAIが評価
 新規性：これまでにない組み合わせか？
 市場性：ビジネス規模や成長性は？
 実現性：技術的に実現可能か？
- フィルタリング：**戦略に合わせて抽出
 ブルーオーシャン領域（市場性→高、実現性→低）
 イノベーション領域（新規性重視）
 早期事業化領域（実現性重視）

⑤資産化：データベースで、アイデアを社内の共有資産に

一過性ではなく、検索・集積可能な「イノベーション資産」として日常業務に浸透させる



生成された膨大なアイデアは専用サイト「ideaflow」上に格納・資産化される

サービスの特徴

- **データベース**：全てのアイデアは資産として蓄積し、社内で共有が可能
- **詳細な企画書**：画像付きの企画書で概要、ペルソナ、リスクなどを検討
- **AIチャット**：AIとの壁打ちでアイデアをブラッシュアップし、常に企画内容をアップデートすることが可能
- **ソーシャル**：「いいね」やコメント機能で部門を超えたディスカッションを誘発し、コミュニティ化

アイデアランドスケープの効果

データに基づく意思決定が経営層の判断スピードを上げ、社内全体での体質改善に有効

1. 速度

数ヶ月かかっていたアイデア出しを数日で完了し**検証サイクルを高速化**

2. 透明性

マップ上の領域・AIスコアなどに基づき、採用 / 不採用の**根拠が説明できる**

3. 再現性

個人に頼る「点」の活動から、**組織的にアイデアを生み出す仕組み化**

4. 越境性

経営・事業開発・R&D・知財など**部門をまたいだ交流**が生まれる

5. 意識変容

社員のインナーブランディングとして「自社の技術は面白い」と再発見

6. 広報PR

技術ブランディングとして知財活用の事例を社外へアナウンス



新規事業・R&Dテーマ探索

技術の棚卸し・**飛び地の探索が効率的になり**、研究開発テーマを絞れる

共創パートナーの発見

目指すテーマや類似領域を探索する**パートナーとコラボレーション**

M&A・アライアンス

シナジーのあるパートナーの分析や**特定**を行い、投資効率が上がる

導入プロセスと納品物

通常3ヶ月程度で「自社の未来地図」を手に入れることができ、その後の伴走支援も可能です



翻訳・量産

対象特許の翻訳・AIによる数万件のアイデア生成



可視化・分析

クラスタリングによるマップでの可視化、データ分析



評価・報告

分析レポートで具体的な「勝ち筋」を特定して提案



資産化・伴走

社内共有ツールを活用し継続的に探索・深化

主な納品物

アイデアランドスケープの一般的な納品物は右のとおりです。
※実施期間や内容に応じて調整もごございますのでご相談ください。



特許要約&アイデアリスト
(CSV形式)



マップツールへのアクセス
(利用期間は応相談)



分析レポート
(PDF形式、内容は応相談)



ideaflowへのアクセス
(利用人数・期間は応相談)

導入事例

実際に「知財×AI」のお取組をご一緒した企業様の生の声

※各バナーをクリックすると詳しいインタビュー記事にリンクします。



アズビル株式会社様

課題：自社のコア技術と未知領域の接続点が不明確で、**構想の幅が狭まっていた**

実施内容：600件の特許から**6万件**のアイデアを創出し既存以外の**新市場を探索**。アイデアマップを共創のツールとして社外へ発信



アビームコンサルティング株式会社様

課題：従来の新規事業が発想力のある個人のひらめきに依存し、**事業開発の再現性が低い**

実施内容：**従来の100倍速の早さ**でアイデア出しを行う伴走支援に活用。未知の業界でもクライアントと「土地勘」を共有した対話が可能に



住友館 EXPO2025 推進委員会様

課題：大阪・関西万博の場にふさわしく、**難解な技術情報を多様な客層にわかりやすく展示したい**

実施内容：グループ内700点の技術を**スペック説明ではなく「わくわくする未来のアイデア」として展示**。共創の会話のきっかけとなる

料金プラン・実施内容

アイデアランドスケープの実施内容は、対象特許・目的・期間などに応じてお見積りいたします

プラン	idea Landscape ベーシック (全社戦略・本格探索向け)	idea Landscape ライト (特定技術・トライアル向け)
想定予算	300万円～700万円	100万円～200万円
活用イメージ	全社的なR&D戦略の策定 中期経営計画の基礎資料	特定技術シーズの用途開発 部門単位での新規事業探索
期間	3ヶ月～12ヶ月	1.5ヶ月～2ヶ月
対象特許数	300件～1,000件（網羅的な探索）	50件～100件（特定領域の探索）
生成アイデア数	3万～10万件	5,000～1万件
成果物	<ul style="list-style-type: none">・特許要約、全アイデアリスト・分析レポート（有望領域、勝ち筋の特定）・マップツール&ideaflow利用	<ul style="list-style-type: none">・特許要約、アイデアリスト・簡易レポート（有望領域の特定）・マップツール&ideaflow利用
オプションプラン	<ul style="list-style-type: none">・ワークショップ：マップから探索するアイディエーション支援（+100万円～）・PoC / プロトタイピング：実際に動くものづくりの企画・開発・運用支援（金額は応相談）	

※上記はモデルケースです。ご予算・期間・特許数などに応じてカスタマイズ可能です。

よくある質問

ご質問の多い項目に対してお答えいたします。ご不明点はお気軽に問い合わせください。

よくあるご質問（FAQ）

セキュリティ上、社外秘の情報の扱いは大丈夫ですか？
—公開済みの特許の活用が前提かつ、生成AIへの入力内容の学習は禁止しています。未公開情報を扱う場合は、個別のセキュリティ環境構築をご相談ください。

アイデアの権利（著作権・特許権）はどうなりますか？
—生成AIによるアイデアの権利は貴社のものとし、当社は主張しません。但し、現行法上直ちに権利が発生するとは限らないため「着想のヒント」としてお考え下さい。

自社に特許が少ない場合でも利用できますか？
—新規領域の探索自体は可能です。また、他社の特許分析を交えることで協業・共創案の探索も可能です。

導入から成果物が出るまでの期間は？
—標準的には3ヶ月程度です。任意でワークショップの実施やR&D制作に至るまでの伴走支援も承ります。

一般的なAIモデルとの比較

比較項目	一般的な生成AI (ChatGPT等)	idea Landscape (ideaflow)
入力データ	手動でのテキストコピペが必要（手間・詳細なプロンプトが必須）	特許番号を入れるだけで自動取得・独特の構造を解析して翻訳
アイデアの質	一般論で抽象的なアイデアになりがち	特許の請求項・実施例に基づいた事業特化の発想
全体像の把握	1対1の対話を中心（点での発想）	数万件をマップ化・構造化（面での戦略策定）
蓄積・共有	個人のチャット履歴に埋もれる（属人化）	社内データベースとして資産化・検索可能

→ 「個人の作業補助」ではなく「**組織の意思決定**」
「**資産化**」にはidea Landscapeが有効

日本の発明を、世界の文化へ。

埋もれた知財と未来のニーズをAIで結びつける。
今まで出会わなかった技術と社会課題を接続し、
より良い未来をデザインする。

お問い合わせ：support@chizaizukan.co.jp

知財図鑑

未来をつくる手段が見つかる。